

食品リサイクル・ループの構築に向けた取組を開始（ゼロエミッション研究会）

2017年度、SEFでは排出事業者主体による廃棄物・資源循環に関する課題の解決をめざし、「ゼロエミッション研究会」と題して10回の勉強会と1回の見学会を開催し、多くの方にご参加頂きました。その中で、参加者の皆様からは「机上だけではなく実践的な取組みを」というお声を多く頂戴しました。

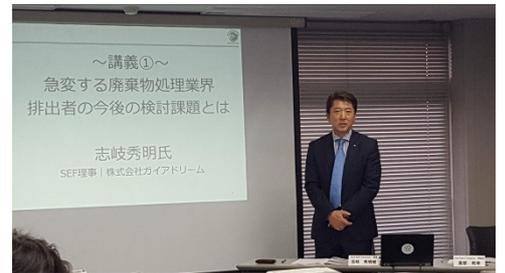
その声を受け、この4月から「2019年度ゼロエミッション研究会 実践で学ぶ！持続可能な食リループのつくり方 ～仕組みづくりから認定取得まで～」と題し、外食事業者の皆様を対象に、持続可能な食品リサイクルループの構築に関する知識やノウハウを学びながら、愛知県名古屋市を舞台に、再生利用事業計画の認定を受けて食品リサイクルループを開始することをゴールとした取組みをスタートしました。

第1回目の勉強会は4月18日（火）15時から、東京駅八重洲口そばの「東京八重洲ホール」にて開催しました。名古屋市での食品リサイクルループへの参加を前提として、（株）リンガーハット様、（株）松屋フーズ様、（株）セブン&アイ・フードシステムズ様、SFPホールディングス（株）様、ワタミ（株）様の5社、食品リサイクルについて学びを深めたいというオブザーバー参加として、アルガエナジージャパン（株）様、（株）船橋屋様、日本マクドナルド（株）様、トリドールホールディングス（株）様、（株）はなまる様、サントリーホールディングス（株）様の6社、計11社の環境部門担当者が集い、企業の垣根を超えた共通課題の解決の場としてキックオフを迎えました。

【急変する廃棄物処理業界～排出者の今後の検討課題とは～】

前半では、志岐秀明理事（（株）ガイアドリーム代表取締役）に、食品リサイクルループの取組みを推進する際に直面する課題である廃棄物処理業界の現状についてのレクチャーをいただきました。

ドライバーの人手不足や処分費の高騰など、処理コストの上昇基調が続く中で、休日や大型連休の回収拒否、収集運搬費用や処分費用の値上げ要請などはますます増える予測。また、世界的な環境問題の高まりによる廃プラ類などの国内処理施設不足など、廃棄物処理業界に大きな変化が到来している中、これまで以上に排出事業者が主体的に廃棄物の課題と向き合っていく必要があることを再確認しました。



【食品リサイクルループの基本と要諦】

後半は、今回の主題である食品リサイクルループをテーマに、百瀬則子理事（ワタミ（株）SDGs推進本部長）に講演いただきました。

まず、食品リサイクル法の趣旨と概要について、また再生利用を促進するための2つの措置（登録再生利用事業者認定制度、再生利用計画認定制度）について確認しました。その後、百瀬理事が前職の総合スーパー時代に取組んできた食品リサイクルループの事例を紹介いただきながら、実際に食品リサイクルループを構築するにあたってのポイントを整理しました。



講演のあと、それぞれの事業者が抱えている課題について参加者との意見交換を行い、第2回までに現状把握（廃棄物の発生状況把握、廃棄物の処理状況把握、最終製品の購入可能性確認など）を各社で実施することを確認し散会しました。第2回勉強会は6月13日（木）15時から、今回と同じく「東京八重洲ホール」会議室での開催を予定しています。第2回からのご参加も承りますので、詳しくは下記リンクからホームページをご覧ください。<https://save-earth.or.jp/archives/6254>

森林再生事業 活動報告

定例の保全活動を実施しました～日向の森 (千葉県山武市)～

本格的な春の訪れを迎え、鳥の声が響き渡る日向の森。4月の定例活動は、5月に控えるイベントの準備を行いました。

13日(土)と27日(土)に実施した保全活動では、散策路の整備、伐倒エリアの除伐と草刈り、植樹の準備を行いました。特に、27日の活動ではベテランの参加者が集い、スムーズに準備を完了させることができました。

※この企画は公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」の支援を受けています。



森林再生事業 活動報告

生物多様性の豊かな森です～東御の森(長野県東御市)～

「東御(とうみ)の森」(長野県東御市有林)は、上信越高原国立公園・湯の丸高原の麓、高度約1,000mの中山間地に位置する里山林。森内には地域の水源である所沢川が流れる溪畔林です。



「東御の森」では、東御市と協定を結び森林保全活動を実施しています。定期的な自然環境調査や環境教育プログラムの実施、特定外来植物(オオハンゴンソウ)を抜去して在来種を保全する活動をしています。

【中高生対象の森林林業体験学習プログラムが始まりました】

4月から10月にかけて、「東御の森」(長野県東御市)では、学校法人郁文館夢学園様(東京都文京区)の中・高校生向け森林林業体験学習プログラムが実施されます。森の自然にふれながら、生物多様性や森の機能、持続可能な森づくりについて考えます。



森の中央を流れる所沢川は旧くから地域の貴重な水源です。豊かな森林土壌は、水源涵養や水土保持機能に繋がります。森内に生息する生き物たちの自然な営みが、森林の生態系を維持しています。

体験前日のレクチャーでは、SDGs目標(6)安全な水とトイレを世界中に/目標(13)気候変動に具体的な対策を/目標(15)陸の豊かさを守ろう について、学びます。

※森の様子やプログラムの様子は、[公式Facebookページ](#)で随時紹介しますので、ぜひご覧ください。



SEFでは、各地域での森林保全活動をお手伝い頂けるボランティアさんを随時募集しています。

千葉県山武市では原則として毎月第2・第4土曜日（東京駅から送迎いたします！）に定例活動を行っているほか、兵庫県丹波市、大分県臼杵市でも定期的実施しています。

直近の活動は下記を予定していますので、ぜひご参加ください。



<5月・6月の活動予定>

千葉県山武市

5月25日（土）

6月8日（土）、22日（土）

※日程は変更となる可能性があります。

最新の情報はホームページを参照ください。

ホームページはコチラをクリック…<https://goo.gl/uEt3CZ>



企業・団体向け森林体験プログラム 「森活」のご案内

SEFでは、企業や団体の皆様向けに「森活」をご提案しています。

私たちがご提案する「森活」とは、「森を活かす」こと。“森”での“活”動を通して、社会貢献活動の一環としての取組みに、またチームの関係性の基盤づくりや強化に、さらにはリラックス・リフレッシュのための福利厚生など、様々な効果につなげることができると考えています。

フィールドとしてご用意するのは日向の森（千葉県山武市）。都心からおよそ90分の好アクセスで、企業・団体の皆様の「森活」をお手伝いします。

皆様のご要望に応じたメニューをご提案しますので、まずはお気軽に事務局までお問い合わせください。

「森活」ってどんなことをするの？

季節に応じて、様々なプログラムをご用意しています。



植樹



下草刈り



間伐



ツル切り・枝打ち



薪割り



森林散策



クラフト